

●第45回小笠原親善訪問 （東京都小笠原村） 金川 孝幸

6月25日（木）～6月30日（火）

25日の夕方底土港船客待合所において山下町長も出席し今回の訪問団（団長他職員2名参加）約160名の出発式が行われた。臨時寄港したおがさわら丸（11,000トン）は接近して来る台風の影響でうねりがある中父島に向けて出港した。

翌日の朝には昭和19年5月に八丈島から動員された方々が引き上げのため乗船していた輸送船青龍丸は潜水艦の攻撃を受けて沈没し八丈島出身者57名が戦死した。船は大きく動揺する中多くの方が参加して黙とうと献花を行い追悼した。

定刻に父島に到着し、午後は村役場の案内で父島内の視察を行った。今回で6度目の訪問となるが自然は守られ町の中に大きな変化を感じられなかった。若い世代が多く子供も多いのは、官公庁の施設は多く村の人口に大きく寄与しているとの説明があった。

夜には村主催の八丈町訪問団歓迎交流会が開かれ、南洋踊りや小笠原太鼓、スチールパンなどの披露があり、八丈太鼓六人会による演奏もあり交流を深めることが出来ました。

2日目は楽しみにしていた南島や海中公園など海上視察を予定していたが、海の状態は悪く中止となり自由行動となった。空いた時間を使い古い知人を訪ねたが、既に亡くなっていたり島を離れた方もいたが、お会い出来た方とはお互いの近況報告など親交を深めることが出来ました。夜には返還58周年になる父島返還祭が行われ八丈太鼓の披露を含め多彩な出し物で賑わいました。特にハワイ、北海道、新島、八丈島のフラダンスグループも参加した数十名によるフラダンスは圧巻でした。

3日目は今回の訪問で楽しみにしていた母島には三度目の正直で渡ることが出来ました。村役場母島支所の方の案内で島内視察を行いました。父島とは違い港に近い一部の地域に民家は集中し、トマトやパッションフルーツ栽培を中心にした農業とカジキマグロなどの漁業が主な産業です。夜には母島の返還祭が行われ、父島とは違う手作り感満載の祭りでおもてなしを受けました。人口の少ない島であるにも関わらず島民の寄付による花火は間近で打ちあがり迫力満点でした。打上は役場の職員に加え地元の方や役場OBの花火師の資格を持った方が行うエコな工夫がありました。お祭りの帰りには産卵のため上陸する海亀を見ることも出来ました。

最終日は母島から父島を経由して帰路につきました。父島出港時にはおなじみのボートによる並走とダイビングのお見送りを受けました。

今回の訪問では渋谷村長や村議会議員の皆さんなどとの情報交換を始め多くのおもてなしを受け大変有意義な訪問となり姉妹島としての交流を深めることが出来ました。

特に議員の方々とは議長会主催の議員研修や八丈島訪問などで何度もお会いしてきましたが、今回は十分な時間が有り島の条件は違いますが同じ島であることによる共通の問題や悩みがあり参考になるお互いの取組事例などを話すことが出来ました。

大変お世話になった小笠原村役場及び関係者の皆さん、団長を始め同行していただいた町の職員、そして八丈太鼓六人会の皆さん並びに親善訪問に協力していただいた小笠原海運に感謝します。何よりも親善訪問に参加された皆さんが訪問を楽しみ事故もなく無事に帰れたことを報告します。